

**2014 年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会**

議 案 書

**2014 年 8 月 9 日 (土)
札幌学院大学
(〒069-8555 北海道江別市文京台 11 番地)**

【2014 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第 1 号議案, 2013 年度事業報告と 2014 年度事業計画承認の件	1
第 2 号議案, 2013 年度決算承認の件 (任意団体 CIEC)	9
・ 計算書類 ・ 監査報告書	
(一般社団法人 CIEC)	12
・ 計算書類 附属明細書 ・ 監査報告書	
第 3 号議案, 2013 年度収支差額処分承認の件.....	17
第 4 号議案, 2014 年度予算承認の件	18
第 5 号議案, CIEC 定款一部改訂承認の件.....	22
第 6 号議案, CIEC 役員選挙規約改定承認の件	23
第 7 号議案, CIEC 役員選挙実施の件.....	24

【資料】

資料 1. 2013 年度活動報告と 2014 年度活動方針.....	25
・ 専門委員会 ・ 部会 ・ 支部	
資料 2. CIEC 活動報告.....	33

2014年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書 議案1. 2013年度事業報告と2014年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECはその学術組織の位置づけを教育者、研究者、学生、そして教育研究を支える人々が協同して学ぶ組織とし、コンピュータやネットワークを利用した教育や学びのイノベーションを追求し、社会に開かれた学術組織という立場でさまざまな教育研究活動を推進してきました。

2013年6月に一般社団法人CIECが設立され、一般社団法人としてこの1年間活動してきました。本議案では、2013年度の事業報告と2014年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会活動の報告は、それぞれの委員会や部会報告にゆだね、ここでは全体に関わる2013年度の取り組みの要点と2014年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

2011年度および2012年度総会で一般社団法人CIEC設立の進め方について決議し、2012年は設立の準備をすすめてきました。2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催しました。CIECの法人化によって本会の理念や事業が変わるものではありませんが、運営・会計・税務を明確にするとともに、外部資金による研究等事業の推進が期待されます。

15周年記念事業(2011年)の具体化は遅れましたが、電子書籍・電子教材に関する米国調査を2013年5月に実施し、2013PCカンファレンス(東京大学)での電子書籍の未来などに関するシンポジウムが開催されました。また、外国語教育研究部会で『最新ICTを活用した私の外国語授業』が出版しました。計画されていた電子書籍・電子教材に関するシンポジウムについては今後の課題として残されました。

2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2013PCカンファレンス」は、2013年8月3, 4, 5日に東京大学 駒場キャンパスで全国大学生協連との共催で851名の参加で開催されました。今回のPCカンファレンスは、テーマは「つぎの教育イノベーションを問う」と題して、これまでICTを活用する教育についてさまざまな提案があったけれども、その1つひとつに翻弄されるのではなく、その先の教育のあり方を構想展望して臨むことが重要であるという問題意識から、教育分野でのICTの利用のあり方を大いに発表し議論し合う場となりました。

まず、東京大学が自ら変わるという挑戦について山内祐平先生(東京大学)から、大学教育を大きく変えるMOOCsの動向について重田勝介先生(北海道大学)から、基調講演があり、それを受けて「大学教育における対面授業・物理的学習環境の価値を再考する」「電子書籍の未来構図を語る」というシンポジウムが開催されました。さらにセミナー、イブニングセッション(交流型・ワークショップ型)が開催されました。分科会では124本(口頭94本、ポスター30本)の発表がありました。

「2014PCカンファレンス」は札幌学院大学で8月8, 9, 10日に開催されます。全体テーマは「『地方』教育の未来を創る」として設定し、北海道から「地方」でのICT教育の挑戦・可能性などを学び、交流し、問いかけたいと思います。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会/部会/支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、ネットワーク委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに、部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2013年度は、第98回から第101回研究会、CIEC春季研究会2014が実施され、「CIEC研究会報告集Vol.5(査読付き)」を刊行しました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し34号と35号を刊行しました。ネットワーク委員会は、本会のネットワーク環境・サービスの整備を担当してきましたが、広報・ウェブ委員会への変更を計画しています。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、引き続き情報収集

をすすめるとともに新たに在外協力委員を置いています。

部会は、会員の自発的組織化として始まり、小中高部会、外国語教育研究部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。さらなる会員の自主的活動の活性化のために、部会の新設を追求します。

小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC研究会を3回実施しました。外国語教育研究部会はPCプレカンファレンス部会企画を実施しました。また、『最新ICTを活用した私の外国語授業』を会員からの原稿公募で出版しました。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。2012年度に新たに九州支部が設立され、これで支部は北海道と九州の2つになりました。2007年度に設立された北海道支部は、11月にPCカンファレンス北海道2013(北海道工業大学)を開催し、高校生プレゼンテーション2013、北海道支部研究会や「学校の玉手箱」というセミナーを実施しました。今後、PCカンファレンスの開催を通じて開催校エリアの会員の参加を追求し、支部設立を広げていきます。2012年に設立された九州支部は、11月に九州PCカンファレンス(鹿児島大学)を開催され、また「教育ツール・デバイス研究会」を「情報生活サポート研究会」に改称し、調査研究活動を展開しました。

さらに「外部資金等プロジェクト」は、会員によって構成されるグループ(非会員も可)が何らかの外部資金等を獲得する、あるいは他組織等と連携する、などを通じて学びとコンピュータに関する調査・研究・開発等に取り組む場合に、それを促進する目的で、本会に外部資金等プロジェクト組織を設定することができるようにするものです。今後、これらを活用したプロジェクトが推進されることが求められます。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度790名(2014年4月)となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また団体会員は団体89(2014年4月)であり、関係の強化については、外部資金等プロジェクト等の枠組みを活用して、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信、会員名簿作成にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており、編集委員会によって査読制度も確実に運営されており、年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。また、学術団体としての研究成果の公表・活用を促進するために、会誌原稿のJSTAGEでの公開をすすめます。

また、ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施しています。2014年度は、広報・ウェブ委員会を新たに設置し、全面的なホームページの刷新に取り組むとともに、ソーシャルメディアの活用をすすめる予定です。

6. 任意団体CIECの解散および、財政基盤の確立と事務局体制

一般社団法人CIECの設立に伴い、任意団体CIECについては2013年度会員総会でもって解散を決議しました。本会会長に譲渡されていた会誌論文等の著作権については、新たに法人が所有するように譲渡契約を実施しました。また、任意団体CIECの精算業務については、一般社団法人CIECの理事会が監督執行し、精算に伴う会計報告については監事監査を受けて2014年度定時社員総会において告知します。

役員任期制(理事・監事3期連続6年上限)を受けて、2014年はこれを受けてはじめて役員任期上

限を迎えました。しかしながら、法人化に伴い、会長、副会長、その他の理事をそれぞれ選出するのではなく、まず理事を選出し、理事会で会長、副会長を互選するという選挙制度に変更されたました。そのため、任意団体のときの規定のまま運用しますと、理事 6 年継続した会員はつぎ会長、副会長に就任できないということになり、本会の持続的運営に支障をきたしかねません。そこで、2014 年度定時社員総会において、定款上では役員任期上限は撤廃し、代わりに役員選挙規約で対応することを議案として提案しています。

2011 年の会費改定と経費対策の取り組みなどを通じて、財政構造は剰余を残せる状況を回復しました。引き続き個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。社員総会、役員選挙についても電子投票制度を導入し、電子化をすすめます。

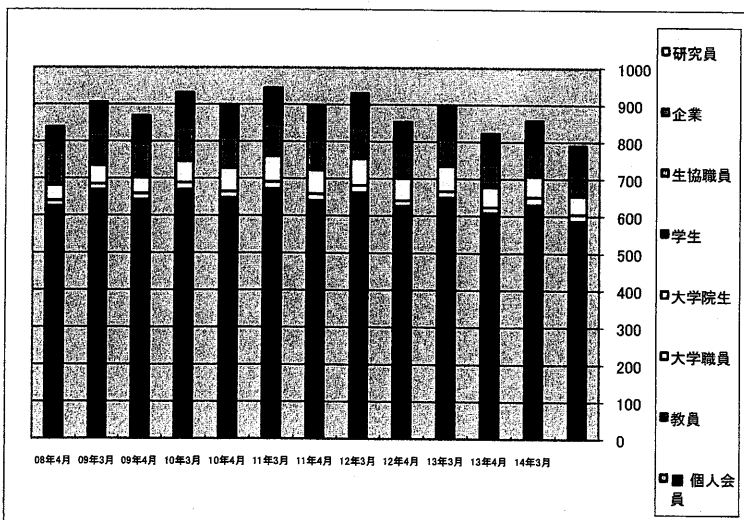
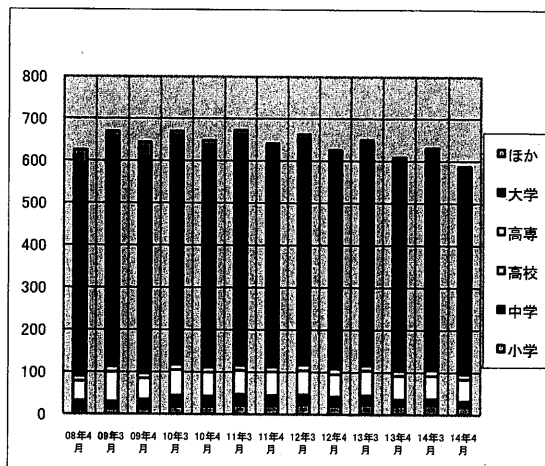
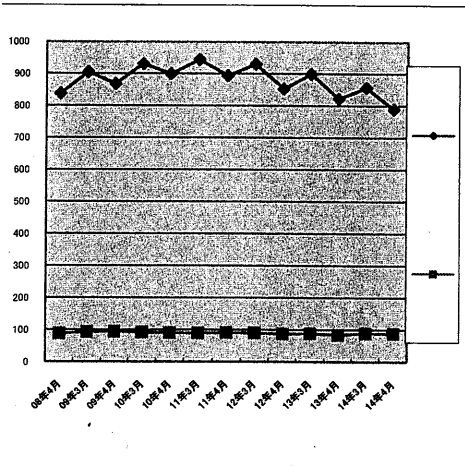
CIEC の活動収支については厳密な運用管理と定期の会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保しています。法人化に伴い、税務当局への報告も明確にしています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2014 年度においても引き続き現行の体制を維持して法人としての事務局活動をすすめます。

以上

会員状況

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度
	08年4月	09年3月	09年4月	10年3月	10年4月	11年3月	11年4月	12年3月	12年4月	13年3月	13年4月	14年3月	14年4月
■ 個人会員													
教員	625	669	643	670	648	672	641	663	626	650	609	631	587
大学職員	15	16	16	19	17	19	18	19	15	17	15	20	18
大学院生	41	50	43	57	63	69	64	72	60	67	54	56	49
学生	5	6	7	7	6	8	8	10	7	9	8	8	8
生協職員	81	82	83	84	77	78	73	73	63	64	53	54	51
企業	26	30	27	31	30	33	31	34	29	35	31	33	27
研究員	7	7	5	7	6	7	7	7	7	6	6	7	7
その他	38	45	44	56	52	58	52	52	46	51	46	48	43
合計	838	905	868	931	899	944	894	930	853	899	822	857	790
■ 団体会員													
企業	24	28	29	31	29	28	30	30	28	29	29	34	33
生協	58	58	58	55	55	55	56	55	55	55	53	53	53
大学	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
高校	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
法人	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1
合計	89	94	95	93	91	90	92	91	88	89	85	90	89
■ 教員内訳													
小学	10	12	12	18	19	22	21	23	21	24	21	23	19
中学	22	18	23	26	24	25	24	24	21	21	15	14	13
高校	46	70	50	61	56	57	56	57	53	59	56	55	52
高専	12	13	11	12	12	12	12	13	13	12	12	13	12
大学	503	536	514	543	527	546	520	538	511	527	498	519	484
ほか	32	20	33	10	10	10	8	8	7	7	7	7	7
合計	625	669	643	670	648	672	641	663	626	650	609	631	587



一般社団法人 CIEC2013 年度財政報告

[経常損益の部]

I. [経常収益について]

(金額は千円以下切り捨て、詳しくは比較損益計算書をご覧ください)

1. 会費収益 1,216 万円／予算 1,210 万円

- ・ 個人会費は 451 万円で予算対比 9 万円の減(-1.8%)でしたが、団体会費は 765 万円で予算対比 15 万円の増(2.0%)となりました。

<会員状況>	2014年3月31日	2014年4月1日
個人会員	857 (内, 79名退会)	790
団体会員	90 (内, 2団体退会)	89

2. 事業収益 77 万円／予算 89 万円

(1)教育出版収入 13 万円／予算 14 万円

- ・ 会誌の定期購読料、抜き刷り収入、書籍の販売でほぼ予算どおりの実績となりました。

(2)研究会報告集 13 万円／予算 25 万円

- ・ 研究会報告集および抜き刷りで、13 万円の実績です。

(3)研究受託収入 50 万円／予算 50 万円

- ・ 全国大学生協連から研究委託費として 50 万円の実績です。

(4)周年事業収益 0

(5)その他の収益 8 千円／予算 5 千円

- ・ 研究会参加費です。

3. 財務収益 900 円／予算 5 千円

- ・ 受取利息 900 円です。

II. [経常費用について]

1. 事業費用 833 万円／予算 965 万円

(1)会議費用 247 万円／予算 310 万円

- ・ 総会費用 41 万円は 2013 年度定時社員総会議案書の印刷代及び郵送料と、2014 年度総会に向けての電子投票導入費用です。
- ・ 理事会費用は 12 月 3 月 6 月の 3 回開催分で 131 万円の実績となりました。(PCC 会期中の 8 月は交通費を支給しません)
- ・ 会誌編集委員会は 8 月 10 月 3 月の 3 回開催で、54 万円の実績です。(PCC 会期中の 8 月は交通費を支給しません)。研究委員会は 3 月の春季研究会にあわせた開催で 19 万円の実績でした。国際活動委員会とネットワーク委員会はネット上での活動が主となっています。

(2)会誌発行費用 228 万円／予算 250 万円

- ・ Vol.35, Vol.36 を発行しました。

(3)広報費用 1 万円／予算 4 万円

- ・ 法人設立にともない、CIEC 普及と会員拡大のために、会長理事・副会長理事の名刺を作成しました。

(4)研究会費用 102 万円／予算 98 万円

- ・ 地域 PCC 派遣・支援費用は、予算 12 万円に対し 2 万円の超過となりましたが、九州 PCC と PCC 北海道に

それぞれ副会長が参加して交流を深めることができました。

- ・研究会は第98回～102回および春季研究会の6回を開催しました。交通費など大幅に抑えられました。
- ・春季研究会ではCIEC研究会報告集 vol.5 を発行しました。抜き刷りとあわせて26万円の実績です。

(5)調査費 5万円／予算20万円

- ・教科「情報」調査費は、北海道支部が5万円の実績となりました。調査の結果はPCC北海道で発表されたほか、協力各大学で活用されています。小中高部会では2013年度は調査を見送りました。
- ・企画調査費の執行はありませんでした。

(6)事業活動費用 67万円／予算58万円

- ・交通費では三役会議が3回開催されましたが、他の会議と同日に開催するよう調整して、費用を大幅に抑えました。
- ・会議費(渉外関係)は、JMOC 協賛会員の年会費です。
- ・事業委託費は、CIECTypingClub 開発費用およびサブサーバレンタル料です。

(7)支部活動援助金 24万円／予算60万円

- ・北海道支部および九州支部の活動費です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(8)部会活動援助金 44万円／予算50万円

- ・小中高部会41万円、生協職員部会3万円の実績です。2部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9)学会表彰事業費 0／予算10万円

- ・2013年度は学会賞の該当がなく、執行されませんでした。

(10)教育出版 1万円／予算5万円

- ・会誌の抜き刷り作成費用です。

(11)周年事業費用 109万円／予算100万円

- ・外国語教育研究部会による15周年記念書籍出版費用です。

2. 管理費用 487万円／予算515万円

(1)ネットワーク運営費 27万円／予算35万円

- ・Webメンテナンス費用24万円、サーバSSL対応3万円です。

(2)事務局通信費 32万円／予算30万円

- ・郵送料、宅配便運賃、電話代です。e-mail連絡を主としています。

(3)事務局業務委託費 300万円／予算300万円

- ・CIEC事務局3名体制で予算通りの実績となりました。

(4)事務用品費 46万円／予算40万円

- ・コピー代、封筒印刷代、他事務用品の費用です。

(5)備品購入費 8万円／予算0

- ・購入から10年となる事務局のPCを買い換えました。

(6)管理委託費 52万円／予算80万円

- ・法人設立にともなう諸費用(登記費用、会計システム導入費用、会計顧問料)で、52万円の実績となりました。

(7)雑費 19万円／予算20万円

・主に、振込や自動引き落としなどの各種手数料です。

(8)予備費 0／予算10万円

・執行はありませんでした。

(9)租税公課 0／予算0

3. 財務費用 0／予算0

[経常外損益の部]

III. [経常外収益について]

1. 寄付金収入 1,515万円／予算500万円

・任意団体 CIEC からの寄付金です。

2. その他経常外収益 0

IV. [経常外費用について] 0

V. [税引前当期剰余金] 1,489万円

VI. [法人税等] 5万円／予算0

・2013年7月～2014年3月の9か月分5万円を納めました。(課税期間は4月～3月のため、2014年4月～6月分は次年度の納税となります)

VII. [当期剰余金] 1,484万円

VIII. [当期首期繰越剰余金] 0

IX. [繰越剰余金] 1,484万円

[全体的な特徴]

会費収益は、1,210万円の予算に対して1,216万円と計画を達成しましたが、経常収益全体では、1,300万円の予算に対して1,294万円と、わずかに及びませんでした。(予算対比-6万円, 99.6%)。

経常費用については、全体の実績は1,320万円で、1,480万円の予算を下回りました(予算対比-160万円, 89.2%)。事業費用、管理費用とも、三役や理事会による管理のもとで、費用の節約や効率的な支出に努めています。

収支では25万円の赤字となりました。2013年度は法人設立にともなう登記や会計システム導入などの初期費用および15周年記念書籍の出版など、当年度限りの支出がありました。赤字は寄付金により補填されます。

2014年3月31日付で、79名の個人会員と2団体会員が退会しました。CIECの活動を支える財政基盤を確立させるべく、会員の加入を促進するなどさらなる取り組みが必要です。

以上

比較損益計算書			
自2013年7月1日 至2014年6月30日			
(単位：円)			
科目	2013年度決算額	2013年度予算額	予算対比
	A	B	A/B*100
(経常損益の部)			
I 経常収益			
1 会費収益	12,169,000	12,100,000	100.6%
1) 個人会員会費収入	4,519,000	4,600,000	98.2%
2) 団体会員会費収入	7,650,000	7,500,000	102.0%
2 事業収益	776,517	895,000	86.8%
1) 教育出版収入	134,017	140,000	95.7%
2) 研究会報告集	134,500	250,000	53.8%
3) 研究受託収入	500,000	500,000	100.0%
4) 周年事業収益	0	0	-
5) その他の収益	8,000	5,000	160.0%
広告掲載料	0	0	-
雑収入	8,000	5,000	160.0%
3 財務収益	949	5,000	19.0%
1) 受取利息	949	5,000	19.0%
経常収益計	12,946,466	13,000,000	99.6%
I I 経常費用			
1 事業費用	8,336,040	9,650,000	86.4%
1) 会議費用	2,473,218	3,100,000	79.8%
総会	419,940	400,000	105.0%
理事会	1,310,751	1,500,000	87.4%
委員会(運営委員会)	0	0	-
委員会(ネットワーク委員会)	0	0	-
委員会(研究委員会)	194,440	400,000	48.6%
委員会(国際活動委員会)	0	100,000	0.0%
委員会(会誌編集委員会)	548,087	700,000	78.3%
2) 会誌発行費用	2,282,474	2,500,000	91.3%
3) 広報費用	18,375	40,000	45.9%
リーフレット発行費	0	20,000	0.0%
その他広報費	18,375	20,000	91.9%
4) 研究会費用	1,029,297	980,000	105.0%
地域PCC派遣・支援費	141,360	120,000	117.8%
研究会費	620,187	600,000	103.4%
研究会論文誌費	267,750	260,000	103.0%
5) 調査費用	50,000	200,000	25.0%
教科「情報」調査費	50,000	100,000	50.0%
企画調査費	0	100,000	0.0%
6) 事業活動費用	675,693	580,000	116.5%
交通費	262,725	400,000	65.7%
会議費(渉外関係)	200,000	30,000	666.7%
事業委託費	212,968	150,000	142.0%
名簿作成費	0	0	-
7) 支部活動援助金	246,297	600,000	41.0%
8) 部会活動援助金	448,158	500,000	89.6%
9) 学会表彰事業費用	0	100,000	0.0%
10) 教育出版費用	17,903	50,000	35.8%
11) 周年事業費用	1,094,625	1,000,000	109.5%
記念書籍出版費	1,094,625	1,000,000	109.5%
2 管理費用	4,870,336	5,150,000	94.6%
1) ネットワーク運営費	271,059	350,000	77.4%
2) 事務局通信費	323,387	300,000	107.8%
3) 事務局業務委託費	3,000,000	3,000,000	100.0%
4) 事務用品費	467,618	400,000	116.9%
5) 備品購入費	87,990	0	-
6) 管理委託費	525,913	800,000	65.7%
7) 雑費	194,369	200,000	97.2%
8) 予備費	0	100,000	0.0%
9) 租税公課	0	0	-
3 財務費用	0	0	-
1) 支払利息	0	0	-
経常費用計	13,206,376	14,800,000	89.2%
経常利益	-259,910	-1,800,000	14.4%

比較損益計算書			
自2013年7月1日 至2014年6月30日			
(単位：円)			
科目	2013年度決算額	2013年度予算額	予算対比
	A	B	A/B*100
(経常外損益の部)			
III 経常外収益			
1 寄付金収入	15,159,691	5,000,000	303.2%
2 その他経常外収益	0	0	-
IV 経常外費用			
1 その他経常外費用	0	0	-
V 税引前当期剰余金	14,899,781	3,200,000	465.6%
VI 法人税等	52,500	0	-
VII 当期剰余金	14,847,281	3,200,000	464.0%
VIII 当期首期繰越剰余金	0	0	-
IX 繰越剰余金	14,847,281	3,200,000	464.0%

貸借対照表

任意団体CIEC

2014年5月31日（単位：円）

科 目	金 額	備 考
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	0	小口支払い用現金
当座預金	0	ゆうちょ銀行
普通預金	0	りそな銀行新都心営業部
普通預金	0	中央労働金庫本店営業部
定期預金	0	中央労働金庫本店営業部
有価証券	0	ダイワMMF
立替金	0	
未収入金	0	
流動資産合計		0
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	0	
預かり金	0	
前受金	0	
流動負債合計		0
III 積立金及び剰余金の部		
1 積立金	11,000,000	
2 剰余金		
前期繰越金	7,275,642	
当期収支差額	-18,275,642	
剰余金合計	-11,000,000	
積立金剰余金合計		0
負債及び剰余金合計		0

任意団体 C I E C 収支計算書 (2013年度及び清算年度)	
自2013年4月1日 至2014年5月31日 (単位：円)	
科 目	決 算 額
I 収入の部	
1 会費収入	0
個人会員会費	0
団体会員会費	0
2 その他収入	78,366
1) 教育出版	72,108
2) 研究会論文誌	0
3) 研究委託費	0
4) その他	6,258
広告掲載料	0
受取利息	4,258
雑収入	2,000
α .収入合計	78,366
II 支出の部	
1 事業費	2,011,906
1) 会議費用	413,780
総会	7,480
理事会	306,300
運営委員会及び各種委員会	100,000
・運営委員会	0
・ネットワーク委員会	0
・研究委員会	0
・国際活動委員会	100,000
・会誌編集委員会	0
2) 会誌発行費	921,577
3) 広報費	29,400
リーフレット発行費	0
その他広報費用	29,400
4) 研究会費用	150,880
地域PCC派遣・支援費用	0
研究会費用	150,880
研究会論文誌	0
5) 調査費	49,000
教科「情報」調査費	49,000
企画調査費	0
6) 事業活動費	148,753
交通費 (事務局打合せ)	115,530
会議費 (渉外関係)	14,386
事業委託費	18,837
名簿作成費	0
7) 支部活動援助金	250,032
8) 部会活動援助金	41,239
9) 学会表彰事業費	0
10) 教育出版	7,245
2 管理費	1,181,911
ネットワーク運営費	60,000
事務局通信費	77,962
事務局人件費	750,000
事務用品費	146,163
備品購入費	0
雑費	147,786
3 予備費	0
4 寄付金	15,160,191
β .支出合計	18,354,008
III 当期収支差額 ($\alpha - \beta$)	-18,275,642
IV 前年度繰越金	7,275,642
V 当期剰余金 (III+IV)	-11,000,000

監査報告書

任意団体コンピュータ利用教育学会（CIEC）
会長理事 妹尾 堅一郎 殿

2014年7月18日

監事 武沢 誠
監事 青木 正己



私たちは、任意団体コンピュータ利用教育学会（CIEC）会則15条にもとづき、本会の第18年度（自2013年4月1日 至2013年6月30日）及び清算年度（自2013年7月1日 至2014年5月31日）の収支計算書を監査しました。

この監査にあたっては、会計帳簿及び証憑について、通常実施すべき監査手続きを実施しました。

監査の結果、収支計算書は、正確であることを認めます。

以上

計 算 書 類

第 1 貸借対照表

貸 借 対 照 表

2014年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	23,192,421	流動負債	8,345,140
現金及び預金	20,823,043	未払金	309,140
有価証券	2,000,566	前受金	8,036,000
未収金	368,812	負債合計	8,345,140
		(純資産の部)	
		その他	14,847,281
		正味財産	14,847,281
		繰越利益剰余金	14,847,281
		純資産合計	14,847,281
資産合計	23,192,421	負債・純資産合計	23,192,421

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」
(2013年1月25日 経済団体連絡会) に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2013年7月1日 至2014年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,519,000	
2) 団体会員会費収入	7,650,000	
	12,169,000	
2 事業収益		
1) 教育出版収入	134,017	
2) 研究会報告集	134,500	
3) 研究受託収入	500,000	
4) その他の収益	8,000	
	776,517	
3 財務収益		
1) 受取利息	949	
	949	12,946,466
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,473,218	
2) 会誌発行費用	2,282,474	
3) 広報費用	18,375	
4) 研究会費用	1,029,297	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	675,693	
7) 支部活動援助金	246,297	
8) 部会活動援助金	448,158	
9) 教育出版費用	17,903	
10) 周年事業費用	1,094,625	
	8,336,040	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	271,059	
2) 事務局通信費	323,387	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	467,618	
5) 備品購入費	87,990	
6) 管理委託費	525,913	
7) 雑費	194,369	
	4,870,336	13,206,376
経常損失金		259,910
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 寄付金収入	15,159,691	15,159,691
V 税引前当期純利益		14,899,781
VI 法人税等	52,500	52,500
VII 当期純利益		14,847,281

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」(2013年1月25日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のないもの 総平均法による原価法

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2014年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	20,823,043	20,823,043	0
資産計	20,823,043	20,823,043	0
②未払金	309,140	309,140	0
③前受金	8,036,000	8,036,000	0
負債計	8,345,140	8,345,140	0

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②未払金

未払金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

③前受金

預り金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位：円)

内 訳	金 額
現金	561, 590
当座預金 ゆうちょ銀行	2, 689, 933
普通預金 りそな銀行	7, 461, 003
普通預金 中央労働金庫	110, 517
定期預金 中央労働金庫	10, 000, 000
合 計	20, 823, 043

(2) 有価証券

内 訳	金 額
大和MMF	2, 000, 566
合 計	2, 000, 566

(3) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	3, 366, 000
次年度団体会員会費	4, 670, 000
合 計	8, 036, 000

2014年7月18日

監査報告

一般社団法人コンピュータ利用教育学会（CIEC）

会長理事 妹尾 堅一郎 殿

監事 武沢 護
監事 青木 正己



第2期事業年度の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次の通り報告します。

1 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、会計帳簿、会計書類、理事会議事録、重要な決済文書及び報告書を閲覧しました。

2 監査の結果

- 1) 事業報告は、法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の議決の内容は相当です。
- 4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3 追記情報

ありません。

以上

第3号議案 2013年度収支差額処分承認の件

2013年度剰余金処分案

I 当期剰余金	<u>14,847,281</u>
II 周年事業準備金	<u>5,000,000</u>
III 次年度繰越金	<u>9,847,281</u>

上記のとおり、2013年度剰余金は、5,000,000円を周年事業準備金とし、9,847,281円を次年度へ繰り越すことを提案いたします。

CIEC (コンピュータ利用教育学会)

会長理事 妹尾 堅一郎

一般社団法人 CIEC 2014 年度予算計画

[経常損益の部]

I. [経常収益について] 1,300 万円

1. 会費収益 総額 1,220 万円

- ・ 個人会員会費収入は 460 万円の計画とし、会員の新規加入を促進します。
- ・ 団体会員会費収入は 760 万円の計画として、団体会員の新規加入を推進します。
- ・ 個人会員、団体会員ともに未納への対応を徹底し、確実な会費収入の確保を図ります。
- ・ PC カンファレンスのみでなく研究会などを通じて会員獲得を目指します。
- ・ 会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

2. 事業収益 総額 79 万円

- ・ 教育出版収入は、会誌の定期購読料と抜き刷り収入等で 14 万円を計上します。
- ・ 研究会報告集は、15 万円を計上します。
- ・ 研究受託収入は、50 万円を計上します。
- ・ 広告掲載は厳しい経済情勢の下、見込めそうにありません。
- ・ 雑収入では、研究会参加費 5 千円を計上します。

3. 財務収益

- ・ 受取利息で 5 千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,480 万円

1. 事業費用 総額 1,016 万円

(1) 会議費用 310 万円

- ・ 総会費用は、20 万円を計上します。電子投票システム採用によって、印刷費および郵送費用を削減します。
- ・ 理事会は、12 月、3 月、6 月の 3 回分 140 万円を計上し機関会議の軸とします。(8 月の PCC 会期中の交通費は支給しません)
- ・ 従来のネットワーク委員会を広報・ウェブ委員会として再編成し、30 万円を計上します。
- ・ 研究委員会は、12 月、3 月開催の 2 回分 40 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 10 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 70 万円を計上します。(PCC 会期中の交通費は支給しません)

(2) 会誌発行費用 250 万円

- ・ 12 月の 37 号、2014 年 6 月の 38 号発行を計画します。

(3) 広報費用 106 万円

- ・ HP 構築運用費として 100 万円を計上します。
- ・ リーフレット作成費として 1 万円、CIEC2013 活動紹介のパネル作成などの費用として 5 万円を計上します。

(4) 研究会費用 総額では 93 万円 (研究会 60 万円)

- ・ 九州 PCC 支援のための派遣費用として 7 万円を計上します。
- ・ 各部会研究会を含む研究会費用を 60 万円計上します。予算化を厳密に図ることと、研究会世話役の再検討を行い、引き続き効率的な運営を目指します。
- ・ 研究会報告集および抜き刷り作成費用として 26 万円を計上します。

(5) 調査費用 10 万円

- ・ 北海道支部の教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。
- ・ 企画調査費として 5 万円を計上します。

(6)事業活動費用 62万円

- ・ 三役会議は、理事会に連動して4回開催とし、40万円計上します。
- ・ 渉外関係は、JMOC 年会費などで、12万円を計上します。
- ・ 事業委託費として、10万円を計上します。

(7)支部活動援助金 60万円

- ・ 支部活動を保障する予算を60万円計上します。北海道支部24万円、九州支部36万円です。支部では地域を単位とした事業(地域PCC、研究会など)を展開しCIEC会員の参加の「場」を広げます。

(8)部会活動援助金 100万円

- ・ 部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を100万円計上します。外国語教育研究部会25万円、小中高部会60万円、生協職員部会15万円です。

(9)学会表彰事業費用 20万円

- ・ 功労賞論文賞各2件以内の規定を前提に、20万円を計上します。

(10)教育出版費用 5万円

- ・ 主に会誌抜き刷り作成費用として5万円を計上します。

(11)周年事業費用 は計上しません。

2. 管理費用 総額464万円

(1)ネットワーク運営費 35万円

- ・ ウェブページのメンテナンスおよびSSL対応費用として35万円を計上します。

(2)事務局通信費 30万円

- ・ 電話代、郵送費、宅配便配送料等、効率化に努めます。

(3)事務局業務委託費は300万円とします。

(4)事務用品費 40万円

- ・ 印刷、コピー代などの費用を中心に40万円を計上します。

(5)備品購入費として10万円を計上します。

(6)管理委託費 20万円

- ・ 法人会計の税務顧問料およびシステム年間運用費用として20万円を計上します。

(7)雑費 20万円

- ・ 振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として20万円を計上します。

(8)予備費 8万円

(9)租税公課 3千円

- ・ 収入印紙代等で3千円を計上します。

3. 財務費用

(1)支払利息は計上しません。

[経常外損益の部]

III. [経常外収益について]

1. 寄付金収入

- ・ 2013年度は任意団体 CIEC からの寄付金収入がありましたが、2014年度は計上しません。
- 2. その他計上外収益 計上しません。

IV. [経常外費用について] 0

V. [税引前当期剰余金] -180万円

VI. [法人税等] 法人税7万円(2014年7月～2015年3月)

VII. [当期剰余金] -187万円

VIII. [当期首期繰越剰余金] 14,847,281円

- ・ 周年事業準備金500万円, 2014年度繰越金9,847,281円です。

IX. [繰越剰余金] 12,977,281円

以上

一般社団法人CIEC 2014年度予算

科 目	2014年度予算	2013年度決算	2013年度予算
(経常損益の部)			
I 経常収益計			
1 会費収益	12,200,000	12,169,000	12,100,000
1) 個人会員会費収入	4,600,000	4,519,000	4,600,000
2) 団体会員会費収入	7,600,000	7,650,000	7,500,000
2 事業収益	795,000	776,517	895,000
1) 教育出版収入	140,000	134,017	140,000
2) 研究会報告集	150,000	134,500	250,000
3) 研究受託収入	500,000	500,000	500,000
4) 周年事業収益	0	0	0
5) その他の収益	5,000	8,000	5,000
広告掲載料	0	0	0
雑収入	5,000	8,000	5,000
3 財務収益	5,000	949	5,000
1) 受取利息	5,000	949	5,000
経常収益計	13,000,000	12,946,466	13,000,000
II 経常費用			
1 事業費用	10,160,000	8,336,040	9,650,000
1) 会議費用	3,100,000	2,473,218	3,100,000
総会	200,000	419,940	400,000
理事会	1,400,000	1,310,751	1,500,000
委員会(運営委員会)	0	0	0
委員会(広報・ウェブ委員会)	300,000	0	0
委員会(研究委員会)	400,000	194,440	400,000
委員会(国際活動委員会)	100,000	0	100,000
委員会(会誌編集委員会)	700,000	548,087	700,000
2) 会誌発行費用	2,500,000	2,282,474	2,500,000
3) 広報費用	1,060,000	18,375	40,000
リーフレット発行費	10,000	0	20,000
HP構築運用費	1,000,000	-	-
その他広報費	50,000	18,375	20,000
4) 研究会費用	930,000	1,029,297	980,000
地域PCC派遣・支援	70,000	141,360	120,000
研究会費	600,000	620,187	600,000
研究会報告集	260,000	267,750	260,000
5) 調査費用	100,000	50,000	200,000
教科「情報」調査費	50,000	50,000	100,000
企画調査費	50,000	0	100,000
6) 事業活動費用	620,000	675,693	580,000
交通費	400,000	262,725	400,000
会議費(渉外関係)	120,000	200,000	30,000
事業委託費	100,000	212,968	150,000
名簿作成費	0	0	0
7) 支部活動援助金	600,000	246,297	600,000
8) 部会活動援助金	1,000,000	448,158	500,000
9) 学会表彰事業費用	200,000	0	100,000
10) 教育出版費用	50,000	17,903	50,000
11) 周年事業費用	0	1,094,625	1,000,000
2 管理費用	4,640,000	4,870,336	5,150,000
1) ネットワーク運営費	350,000	271,059	350,000
2) 事務局通信費	300,000	323,387	300,000
3) 事務局業務委託費	3,000,000	3,000,000	3,000,000
4) 事務用品費	400,000	467,618	400,000
5) 備品購入費	100,000	87,990	0
6) 管理委託費	200,000	525,913	800,000
7) 雑費	200,000	194,369	200,000
8) 予備費	87,000	0	100,000
9) 租税公課	3,000	0	0
3 財務費用	0	0	0
1) 支払利息	0	0	0
経常費用計	14,800,000	13,206,376	14,800,000
経常利益	-1,800,000	-259,910	-1,800,000

科 目	2014年度予算	2013年度決算	2013年度予算
III 経常外収益			
1 寄付金収入	0	15,159,691	5,000,000
2 その他経常外収益	0	0	0
IV 経常外費用			
1 その他経常外費用	0	0	0
V 税引前当期剰余金	-1,800,000	14,899,781	3,200,000
VI 法人税等	70,000	52,500	0
VII 当期剰余金	-1,870,000	14,847,281	3,200,000
VIII 当期首期繰越剰余金	14,847,281	0	0
IX 繰越剰余金	12,977,281	14,847,281	3,200,000

第5号議案 CIEC定款一部改訂承認の件

メンバーズコメントでご提案しました通り、一般社団法人CIEC設立の際に定めた定款について一部不都合が見いだされましたので、下記の通り、定款の一部改訂を2014年度社員総会に提案します。

(改訂前)

定款第19条第1項 理事および監事の任期は、いずれも2年とし連続しての再任は3期6年を上限とする。

(改訂後)

定款第19条第1項 理事および監事の任期は、いずれも2年とし、再任を妨げない。

(説明)

定款第19条第1項には「理事および監事の任期は、いずれも2年とし連続しての再任は3期6年を上限とする。」とあります。この規定は任意団体の会則の改定で定められていたものを継承したものです。しかし、任意団体の役員選挙では、会長、副会長、理事はそれぞれ別に選出されていまして、たとえば理事6年を経て新たに副会長に立候補選出されることは可能でした。また、副会長を4年やってそれから会長を6年担当するということも可能でした。

ところが、一般社団法人では、関係法にもとづき、理事・監事をまず選出した後、理事会で会長理事、副会長理事を互選するという手続きに変更となりました。そのため、本定款にもとづけば、たとえば理事6年を経た後に新たに理事候補として立候補選出され、会長理事ないし副会長理事として互選されるというようなことは不可能になりました。会長理事、副会長理事がそれまでの理事経験のために連続して活躍できなくなるというのでは、本会の持続的な発展を妨げるおそれがあります。

また、団体会員から推薦される理事候補についても、団体会員の事情で理事担当をご推薦いただくものであり、再任上限を設定することは不合理だと考えられます。

以上の理由から、上記の定款第19条第1項を「理事および監事の任期は、いずれも2年とし、再任を妨げない」に修正することを提案します。

以上

第6号議案 CIEC役員選挙規約改定承認の件

第5号議案でのCIEC定款の一部改訂に伴って、役員選挙規約の方で役員任期上限の運用についてルール化するようにいたします。

(改定前)

第6条 2. 理事会は、本人の同意を得て、選挙公示で示された受付期日迄に所定の書式に必要な事項を記載して選挙管理委員会に候補者を推薦することができる。

(改定後)

第6条 2. 理事会は、本人の同意を得て、選挙公示で示された受付期日迄に所定の書式に必要な事項を記載して選挙管理委員会に候補者を推薦することができる。その際、理事会は、会長・副会長・その他の理事（予定）それぞれにおいて連続3期の上限の原則に配慮して推薦名簿をまとめるものとする。

以上

第7号議案. CIEC役員選挙実施の件

CIEC役員選挙規約に基づき2014年度・2015年度（2014年度社員総会から2016年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事

団体会員の理事

監事

資料1：専門委員会，部会，支部 2013 年度活動報告と 2014 年度活動方針

(敬称略)

会誌編集委員会

1. 2013 年度活動報告

2013 年度の『コンピュータ&エデュケーション』は，34 号と 35 号を刊行した。PC カンファレンスでは編集委員会企画セミナーを開催した。

(1) 34 号 (2013.6.1) の発行について

巻頭 INTERVIEW「コンピュータを守り，情報を守る」松本芳武さん「シネックスインフォテック株式会社執行役員社長&CEO」に聞く

特集「統計分析に向きあう」：4 本／活用事例：3 本／論文：2 本／本の紹介

【参考】一般投稿（特集，本の紹介を除く）10 本（採択：5 本 不可：5 本）

(2) 35 号 (2013.12.1) の発行について

巻頭 INTERVIEW「コンピュータは言語を理解するか」小宮善継さん「ロコヴィスタ株式会社代表取締役社長」に聞く

特集「アジア圏の ICT 教育事情」：3 本／2012PC カンファレンス報告「つぎの教育イノベーションを問う」／活用事例：3 本／ソフトウェアレビュー：1 本／論文：3 本／本の紹介

【参考】一般投稿（特集，本の紹介を除く）13 本（採択：7 本 不可：6 本）

(3) 2013PC カンファレンスで編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために-求められる論考と期待される内容-」を開催した。

(4) 第 101 回 CIEC 研究会「機械翻訳との上手なつきあい方」を小中高部会と共催で開催した。

(5) 会誌の投稿ジャンル「活用事例」を「事例研究」に名称変更するとともに投稿規定の一部変更を決定した。PCC セミナー等で会員への周知を図っていく。

2. 2014 年活動方針

(1) 昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指す。「本の紹介」については，従来と同様に理事会メンバーに積極的な投稿を求める。

(2) 昨年度に投稿ジャンル「活用事例」の「事例研究」への名称変更並びに執筆要項についても「論文」同様としたことに関して，会員への周知を図っていく。

(3) 査読体制の強化と査読の迅速性を目的として，2013 年度に引き続いて理事に査読協力を求めていく。

(4) 巻頭インタビューについては，昨年に引き続き CIEC 団体会員を中心として対談相手を選定し，団体会員に対する CIEC 活動への参加の機会を設けるとともに，CIEC への理解を深めることを目指す。また，団体会員の協力の下，編集委員会主催の研究会開催も追求する。

【参考】昨年度に会誌巻頭インタビューを行ったシネックスインフォテック株式会社およびロコヴィスタ株式会社はインタビューをきっかけとして団体会員となった。さらに，ロコヴィスタ株式会社の協力の下，第 101 回 CIEC 研究会を開催した。

(5) 学会賞選考委員会に編集委員会として積極的に関わっていく。

(6) 2014PCC においても昨年度に引き続き編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」を開催することを目指す。

ネットワーク委員会**1. 2013 年度活動報告**

CIEC の Webpage ならびにサーバ機器の維持管理につきましては、日常的に業務が発生していますが、概ね順調に対応・処理できました。部会等から特に新たなサービスの要望はありませんでした。

CIEC TypingClub のプロジェクトチームでは、クライアントソフトの Windows8.1 への確実な対応のための作業を進めています。

2. 2014 年度活動予定

2014 年度から、本委員会を「広報・ウェブ委員会」に再編することが理事会で決まっております。本委員会としての活動方針は立てませんが、新しい体制に移行するために、ファイルの提供などの協力をします。

CIEC TypingClub につきましては、全国の多くの大学等のパソコン教室で利用され、現在なお新たな利用申込がある状況ですので、サーバ管理ならびにクライアントソフトの開発は、ワーキンググループ（位置づけは理事会に委ねます）として継続します。

国際活動委員会**1. 2013 年度活動報告**

2013 年 5 月 28 日から 6 月 1 日まで CIEC 会員 10 名が米国サンフランシスコへの視察を実施し、電子書籍関連企業および研究機関を訪問見学した。この成果を、2013PCC のシンポジウム 2 で報告した。そこでは、米国 UCOM 社の Faustino Hernandez 氏を招きパネリストとして登壇して頂いた。その他のパネリストとして、妹尾堅一郎会長、興治文子国際活動委員会副委員長から報告を受けた。また、モデレーターは吉田晴世副会長であり、司会進行をお願いした。サンフランシスコ視察には、興治氏、佐藤氏、辰島氏、森氏、吉田氏が参加している。

シンポジウム 2 のテーマは「電子書籍の未来構図を語る」であり、Hernandez 氏からは米国で電子書籍が成功している 4 つのポイントが報告された。それらのポイントは、(1) デジタル教育への予算が多額であること、(2) 教育現場でのハードウェアとソフトウェアの発展が目覚ましいこと、(3) 教育コンテンツのデジタル化が進んでいること、(4) ユーザに優しいデジタル環境があること、となる。会場からも活発な意見が出て、有意義なシンポジウムとなった。

また、2013 年 6 月 30 日に開催された第 98 回研究会「米国のデジタル書籍状況と日本のデジタル教科書」を小中高部会と共催して担当した。さらに、2014 年 6 月 22 日の第 102 回研究会「高大接続で繋がる学びとは、何か」を小中高部会と共催で行った。

2. 2014 年度活動方針

- (1) これまでに引き続き、アジア・オセアニアを中心に北米・欧州も視野に入れ、連携可能な学協会やその他組織の情報を収集する。
- (2) 2013 年度に研究会などで共催した「NPO 法人理科カリキュラムを考える会」、「日本物理教育学会」など国内の他学会等から国際活動に関する情報を得て、CIEC の国際活動を展開する。
- (3) 会員による国際交流企画についても、支援を行えるよう努める。

研究委員会**1. 2013 年度活動報告**

今年度は、第 98 回研究会から第 101 回研究会までの 4 回の CIEC 研究会（詳細は、CIEC の Web ページを参照のこと。）および、論文投稿と口頭発表が一体となった CIEC 春季研究会 2014 を行った。なお、第 98 回研究会は、小中高部会・国際活動委員会による研究会。第 99 回研究会と第 101 回研究会は、小中高部会が中心となって企画した研究会であり、第 100 回と CIEC 春季研究会 2014 は、研究委員会の企画によるものである。

(1) 第 98 回研究会 (小中高部会・国際活動委員会の共催)

テーマ「米国のデジタル書籍状況と日本のデジタル教科書」

開催日時：2013 年 6 月 30 日 (日) 13:00 - 16:20

会場：アルカディア市ケ谷私学会館 地下会議室

参加者数 40 名

(2) 第 99 回研究会 (小中高部会主催)

テーマ「iBooks Author で作るインタラクティブなデジタルハンドアウト」

開催日時：2013 年 12 月 14 日 (土) 13:00 - 17:00

会場：東京学芸大学附属高等学校

参加者数 40 名

3) 第 100 回研究会

テーマ「e-Learning における数式自動採点の可能性 2」

開催日時：2014 年 2 月 22 日 (土) 13:15 - 17:45

会場：名古屋大学 IB 電子情報館 014 講義室

参加者数 27 名

3) 第 101 回研究会 (会誌編集委員会主催, 小中高部会共催)

テーマ「機械翻訳との上手なつきあい方」

開催日時：2014 年 3 月 8 日 (土) 13:00 - 17:00

会場：大学生協杉並会館 B103・B106

参加者数 17 名

4) CIEC 春季研究会 2014

日時 2014 年 3 月 22 日 (土) 10:00 - 17:10

会場 大学生協杉並会館 B103・B106

参加者数 38 名

昨年度に引き続き、研究会企画としての春季研究会である。本研究会は、その位置づけを明確にするため、研究会を主として開催し、発表される論文を「研究会報告」として取り扱うこととなった。したがって、CIEC 春季研究会における研究報告を報告集「CIEC 研究会報告集 Vol.5 (査読付き)」として発行し、本報告集に、一般論文 1 編、実践論文 6 編、萌芽論文 6 編、研究速報 1 編、の合計 14 編の査読を行った上で掲載した。今回の春季研究会 2014 における発表題目は、下記のとおりである。

- ・日本語の音声に伴う感情表現のパラ言語的情報の認識化の試み - スマートフォンのアプリケーションの開発を中心に -
- ・英語科における反転授業と iPad の効果的な教室運用に向けて
- ・反転授業形式による英文ライティング添削指導のためのオンライン動画教材の制作と活用について
- ・グループ練習におけるタブレット端末の活用 - 日本語学習者向け漢字教材の改良とその効果 -
- ・21 世紀型スキル育成のための CSCL を活用した授業デザイン - Evidence-Centered Assessment Design の評価モデルを用いた授業の提案 -
- ・ゲーミフィケーションを活用した e-Learning コンテンツの学習効果と動機付け
- ・「学びやすさ」を重視した教材改善プロセスの実践と検証
- ・テスト分析と最適条件設定を自動化する潜在ランク理論に基づくコンピュータ適応型テストの開発 - Moodle プラグインとしての実装と評価 -
- ・学生による問題作成と Excel VBA による学習プログラムの開発と評価
- ・情報教育における学生支援について - 発達障害学生への対応 -
- ・対面授業のムービーコンテンツ化と一定間隔での操作要求を行うムービー配信サーバの構築
- ・不安定ネットワーク向けの e-learning システムの提案
- ・画像処理を用いた簡便な双方向システムの授業適用
- ・「色彩学習プログラム」開発のための基礎研究

2. 2014 年度活動方針

従来から行っている形式の研究会のほか、来年度は、教育工学会の研究会との共催による研究会（12月13日（土）名古屋：椋山女学園大学）の開催を予定している。さらに、昨年度行った春季研究会（研究会を主として開催し、発表される論文を「研究会報告」として取り扱うこととした。）に引き続き「CIEC 春季研究会 2015」を行うこととしている。

小中高部会

1. 2013 年度活動報告

(1) 小中高部会世話人会の活動

東京で実施した世話人会で研究会・PCC の企画等を検討した。その他、北海道地区では、北海道の小中高部会世話人が、PCC 北海道の活動を分担するなど地区独自の活動を行っている。

(2) 具体的な活動

1) 2013PC カンファレンス（東京大学）で、セミナー担当

セミナーのテーマ：「あなたは未来に向けた教育をしていますか-変わりつつある学びの場」

2) 研究会（小中高部会主催 2 回、共催 1 回実施）

2013 年度は、CIEC の組織やメンバーの協力を得ながら研究会を実施することを目指し、以下の研究会を実施した。

・第 98 回研究会

テーマ「米国のデジタル書籍状況と日本のデジタル教科書」

日時 2013 年 6 月 30 日（日） 13:00 - 16:20

会場 アルカディア市ケ谷私学会館

・第 99 回研究会

テーマ「iBooks Author で作るインタラクティブなデジタルハンドアウト」

日時 2013 年 12 月 14 日（日） 13:00 - 17:00

会場 東京学芸大学附属高等学校

・第 101 回研究会 会誌編集委員会主催 小中高部会共催

テーマ「機械翻訳との上手なつきあい方」

日時 2014 年 3 月 8 日（土） 13:00 - 16:30

会場 大学生協杉並会館

・第 102 回研究会 小中高部会・国際活動委員会共催

テーマ「高大接続で繋がる学びとは、何か」

日時 2014 年 6 月 22 日（日） 13:00 - 17:00

会場 大学生協杉並会館 2 階 204・205 会議室

2. 2014 年度活動方針

(1) 小中高部会 2014 年度活動方針

- ・新学習指導要領のもとで、情報教育がどのように進められているか、また進めるべきかを検討する。
- ・反転学習など新しい授業法の研究を進めるとともに、その授業法の実践データを蓄積する。
- ・新学習指導要領下での高等学校教科「情報」の実態調査にむけて予備調査を開始する。
- ・将来の情報教育の在り方について、研究会を実施する。
- ・身体的認知などの新しい認知論について研究会を実施し、学びとの関係を研究する。
- ・タブレットなどの新しいデバイスを利用した教育の実践研究とその成果について、研究会を通して検討する。

(2) 具体的な活動

- 1) 2014PC カンファレンスにおけるセミナーの実施
テーマ「高校生に聞く！「こんな情報教育が受けたい」」
- 2) 地域支部・地域カンファレンスへの参加，協力
- 3) 研究会の実施（内容は未定だが，3回，東京で開催予定）
- 4) 学習会の実施（萌芽研究として位置づけ，各地区で実施）

外国語教育研究部会**1. 2013 年度活動報告**

2013 年度は，8 月の PC プレカンファレンス部会企画として，オーサリング・エンジニアであり，テクニカルライターである林拓也氏を講師として招聘し，マルチメディアを含む電子書籍のフォーマットとしての EPUB3 セミナーを実施し，参加者たちに電子書籍教材作成の基本的な手法をメディア・オーバーレイの実演を含めて理解してもらった。PC プレカンファレンスを実施した東京大学駒場キャンパスの会場校は，ワークショップをするには不十分な施設であったことと，セミナー時間に限りがあったため，参加者が実際に同様の EPUB3 を制作することはできなく，デモンストレーションのスタイルになってしまったことは否めなかった。しかし，参加者総数は 55 名の定員をオーバーするほどで，盛会であった。

CIEC15 周年記念事業の一環として，『最新 ICT を活用した私の外国語授業』を，CIEC 会員並び一般読者に，出版という形で提供することを目的に，原稿を公募した結果，理論篇 3 本，実践編 17 本が集まった。しかし，共編者によって審査した結果，理論篇 1 本は実践的な内容がきわめて多く，著者の了解を得て，実践編に異動した一方，内容的に不適合と思われた実践編 2 本については，不採択とした。その結果，理論篇 2 本と実践編 16 本から構成される『最新 ICT を活用した私の外国語授業』を 2014 年 3 月に丸善プラネットより 1,000 部出版することができた。共編者であり，世話人代表である野澤が機関誌である次号の『コンピュータ&エデュケーション』に紹介文を書いた。

2. 2014 年度活動方針

2014 年度の活動計画は，8 月の PC プレカンファレンス部会企画はすでに決定済みのため，会員に有意義なワークショップ・スタイルの集中 1 日セミナーを 2 回実施したいと計画している。

<案 1>

題名 iBook Author を使った電子書籍教材作成一日ワークショップ

場所 大学生協杉並会館（あるいは世話人所属の大学など）

時期 2014 年 10 月ないし 11 月頃

概要 iBooks Author を前もってインストールしてある Macintosh Laptop などを参加者に持参してもらい，基本的な手法を学んでもらう集中的な一日ワークショップを実施する。午前中は基本的な制作の基礎を学び，午後は各自の興味のある外国語教育・学習用 eBook を作成してもらい，その後小グループあるいは全体で評価し合う。

<案 2>

題名 Sigil を使った電子書籍教材作成一日ワークショップ

場所 立命館大学琵琶湖草津キャンパス（あるいは世話人所属の大学など）

時期 2015 年 4 月あるいは 5 月頃

概要 EPUB3 仕様の電子書籍教材作成に必要な Sigil の基本的な手法を学んでもらい，参加者独自の電子書籍教材を作成してもらい。EPUB の特徴とメリットを理解してもらい，その制作の基礎及び応用可能性に着目する。外国語教育・学習へ有効ないくつかの基本的なコンテンツの紹介とその教材開発の方法を含めた集中的な体験学習をしながら，Mac 版あるいは Windows 版の電子書籍を作成する。その後小グループあるいは全体で評価し合う。

生協職員部会

1. 2013 年度活動報告

(1) 研究会／企画

1) 6月/2013PC カンファレンス事前準備企画 「PC 講習会運営スタッフ座談会」

大学生協ではパソコン講習会を開催し、先輩学生から後輩に伝えていく場を恒常的に提供し続けている。その中で生協職員部会として、学生らとその学びの場をどのような思いで形成してきたのか、また、どのように今後発展させていきたいのか、学生らが作り上げる学びの場の意味、新しい教育のデザインについて議論を行った。

議論を行う中でスタッフたちは「PC 講座を運営していて、大学生活で自らが困ったこと、それを解決して学んだことを先輩から後輩に伝えることには価値になっている」ということを改めて共有することができ、PC カンファレンス セミナー3の議論のための準備を行うことができた。

参加した PC 講習会運営スタッフ所属大学
京都大学・名古屋工業大学・東京農工大学

2) 8月/2013PC カンファレンス セミナー3

テーマ：「学びの主体者たる学生たちの『思い』と『これから』 -学び手・教え手・学びの場の作り手として-

大学生協が行っている新入生向けの PC 講座を運営している3大学の事例報告、現在の高校生のコンピュータリテラシーの状況報告と高校での教科情報における現状の報告をいただき、学ぶ手が学ぶだけでなく教え手も実践を行いながら学ぶことができる、そして、学生同士の学びの場を構築することにどのような価値を考えて、このような PC 講座の取り組みが行われているかを議論された。

大学生協および東京工業大学生協での取組報告は新入生を迎える中で「学びと成長をサポートする」という目標のもと様々な活動を行っている。その中の一つの活動として PC 講座は開催されており、その講座は先輩学生が講師となり新入生に教えられている。多くの大学生協でも同様に PC 講座が開催されており、先輩学生の体験を元に新入生に知っておいてほしい中身を伝える場として提供されている報告をいただいた。

高校生のコンピュータリテラシーの状況報告と高校での教科情報における現状の報告では北海道札幌旭丘高等学校で取組まれてる新入生のコンピュータリテラシーに関するアンケート結果報告と、高校の共通教科「情報」では何をやっているのかが報告された。学習要項の変更により、従来より情報モラル教育の比重が高まる一方、学習時間数は変更が無い場合情報活用の実践力の時間は全体の3分の1しかとることができない。大学側が求める「ある程度はパソコンを使いこなす」というと教育が実際には非常に厳しい現状もあることを報告いただいた。

大学生協が行っている新入生向けの PC 講座を運営している3大学の事例報告では実際の報告事例とともに、学生自身が何を価値として考えて、新入生に向けて PC 講座を行っているかを報告いただいた。学生自身が PC 講座を運営していく内容「大学生活で学生本人が自ら困ったこと、それを解決して学んだことを、先輩から後輩に伝えること」が学生同士の学びの場になっており、PC 講座を学生主体となり運営することに価値があるということであった。

大学生協の PC 講座という場面が、新入生が学ぶだけでなく、教える側も教えることを通じて学ぶ場になっていることになっており、その支援をする大学生協の役割の重要性を再度確認することとなった。フラットやオープンでの学びの場のあり方が議論された中で、今後の PC 講座の方向性、例えば「先生じゃ教えられないことや先生と生徒の関係では生じないこと、学生同士だからこそこの学びが起きること」から見いだせるのではないかと問の中から、パネリストの学生とフロアの PC 講座運営スタッフの学生から、学生同士だからこそ教えることができることについての議論が行われた。PC 講座のような講座形式だけでなく、教える側・教わる側という固定の関係だけでなく新しい学生同士の学びの方法として時間や場所にとらわれないオンラインでの交流や新入生同士のコミュニティなど作ることができるのではと議論された。

今後は生協部会としては学生同士の学び手・教え手・学びの場や新しい学生同士の学びについて議論を進めていきたいと考えている。また、それだけでなく新しい世代の学生がどのような学びを作っているのかを研究していきたい。

3) 世話人会 (関東世話人会計 6 回実施)

- 2013. 2. 1 (関東) PC カンファレンス 2013 企画案討議
- 2013. 3. 14 (関東) PC カンファレンス 2013 企画案討議
- 2013. 5. 17 (関東) PC カンファレンス 2013 企画案討議
- 2013. 6. 20 (関東) PC カンファレンス 2013 企画案討議
- 2013. 6. 28 (関東) PC カンファレンス 2013 企画準備
- 2013. 7. 28 (関東) PC カンファレンス 2013 企画準備

2. 2014 年度活動方針

(1) 変化し続ける大学内での教育の変化や、学生同士が学び合う学生コミュニティの状況、公式の教育以外でのインフォーマルな教育への大学生協の関わりについての議論と事例の研究。

(2) ソーシャルメディアの動向、電子書籍による「知の流通」の枠組みの変化など、これからの大学コミュニティに影響を及ぼすと思われる事柄を調査研究し、大学生協の関わり方を考える。

(3) 研究会／企画

8 月：2014PC カンファレンス セミナー 3 運営

タイトル「高校の情報教育」～「大学入学時のメディアリテラシー教育」にギャップはあるのか？
～高校生から見て、大学生から見て～

北海道支部

CIEC 北海道支部では、12 回目となった PC カンファレンス北海道の開催を中心に、Apple Store を会場に行なっている「教育の玉手箱シリーズ」の継続に加え、高校生を対象にした「高校生プレゼン」を北海道支部主催で開催しました。これらの活動を通して新たな会員を増やすこともできました。具体的な活動報告は下記の通りです。

(1) PCC 北海道 2012 (参加者 100 名)

テーマ 「クラウドが変える教育の未来 ～新しい可能性～」

日時 2013 年 11 月 3 日 (日), 4 日 (祝月)

会場 北海道工業大学

特別講演 「クラウドと教育」

佐藤 一郎氏 (国立情報学研究所)

シンポジウム「クラウドが変える教育の未来」

パネラー 曾我 聡起 (北海道文教大学)

川名 典人 (札幌国際大学)

小賀 聡 (株式会社ラプト・北星学園大学短期大学部、札幌大学)

分科会 (21 本), IT プレゼン, プレゼンテーションスキル賞 (学生, 院生対象)

ワークショップ

(2) 高校生プレゼン 2013 開催

日時 2012 年 11 月 3 日 (日)

会場 北海道工業大学 PC カンファレンス北海道 2013 において

参加者 9 グループ, 22 名 (道内 3 件, 道外から 6 件であった)

(3) 学校の玉手箱 (アップルストア札幌にて)

- 1) 学校の玉手箱 Vol. 18：iPod touch 教育実践事例 高校・大学篇 [4月20日]
「学習アプリケーションを利用した効果的な教育」「iBooks Author を利用したデジタルブックの作成」の2つのテーマに沿って、iOS デバイスの活用の仕方をワークショップ形式で紹介した。講師 川名典人氏（札幌国際大学）、曾我聡起氏（北海道文教大学）、川村麻未（北海道文教大学 人間科学部・健康栄養学科四年生）。司会 曾我聡起氏（参加者15名）
- 2) 学校の玉手箱 Vol. 19：Mac や iPad を活用した大学教育の事例紹介 [5月25日]
Mac や iPad を授業カリキュラムに取り入れてユニークな講義を実践している大学での試みを紹介した。講師 川名典人氏（札幌国際大学）、小松隆行氏（北海道工業大学）。
司会 曾我聡起氏（北海道文教大学）。（参加者15名）
- 3) 学校の玉手箱 Vol. 20：デジタル教科書と教員養成課程における利用 [8月10日]
大学の教員養成過程で iPad 用デジタル教科書を活用する試みを紹介した。
講師 伊井義人氏（藤女子大学）、中永みどり氏（東京書籍 ICT 事業部）。
司会 曾我聡起氏（北海道文教大学）。（参加者30名）
- 4) 学校の玉手箱 Vol. 21：高校生が語る iPhone アプリケーションの作り方 [1月26日]
伊藤輝氏（札幌旭丘高校に在学中）による iPhone アプリケーションの制作について、コンセプトから開発方法まで自身の体験に基づいて発表した。司会 曾我聡起氏（北海道文教大学）（参加者20名）
- 5) 学校の玉手箱 Vol. 22：iPhone, iPad を使った近未来型講義の提案 [3月8日]
iPhone や iPad を使った先進的な講義の方法を提案した。
講師 川名典人氏（札幌国際大学）、曾我聡起氏（北海道文教大学）。司会は曾我聡起氏（北海道文教大学）（参加者20名）

2014年度の活動計画

PCカンファレンス北海道は、PCC全国大会の北海道開催のために開催しないが、2-3回の研究会、玉手箱シリーズの実施を予定している。

九州支部

1. 2013年度活動報告

恒例の九州PCカンファレンスは、2013年度は11月9、10日に鹿児島大学で開催されました。基調講演「パソコンからスマートフォンそして未来へ」、シンポジウム「世代内のつながり世代間のつながり」は、ともに提起的で学ぶことが多く、参加者に好評であった。分科会は3つに分かれ、今年度は九州外からの発表は無かったが、九州から17本の発表があり、1つのワークショップが企画された。

「教育ツール・デバイス研究会」は「情報生活サポート研究会」に改称され、大学生協における調査、研究会での議論、九州PCカンファレンスでのワークショップなどの活動を行った。

2. 2014年度活動方針

九州PCカンファレンスは、11月8、9日の開催予定で準備を進めている。開催校については最終調整中である。今年度は、1つのテーマとして、「グローバル人材育成」が考えられている。

情報生活サポート研究会は、学生の情報生活サポートをテーマとした研究を進めるとともに、IT機器の進化（タブレット端末等の普及）に伴う教育現場における変化を大学生協としてどう支援して行くべきかについての情報収集を行う。札幌でのPCカンファレンスならびに九州PCカンファレンスで成果を発表する。その他の支部活動についても、PCカンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索する。

2013年4月

- 9火 学校の玉手箱(CIEC北海道支部) Vol. 18
 14日 2013PCカンファレンス分科会時間割編成会議
 20土 2012年度第4回三役会議

2013年5月

- 10金 監事会／北海道PCC実行委員会
 17金 生協職員部会世話人会
 25土 学校の玉手箱(CIEC北海道支部) Vol. 19
 27月 米国視察（～6/1）

2013年6月

- 2日 2012年度第4回理事会／一般社団法人CIEC設立総会
 2013PCカンファレンス第3回プログラム委員会
 7金 PCC北海道2013実行委員会
 20木 生協職員部会世話人会
 25火 一般社団法人CIEC成立
 28金 生協職員部会世話人会
 30土 CIEC第98回研究会（アルカディア市ヶ谷）
 「米国のデジタル書籍状況と日本のデジタル教科書」

2013年7月

- 1月 総会開催公示
 15月 CIEC共催シンポジウム「アジアの物理教育—現状及びこれから目指す道」
 主催：NPO法人理科カリキュラムを考える会

2013年8月

- 2金 2013PCカンファレンス第2回実行委員会(東京大学)
 2012年度第5回理事会／小中高部会世話人会
 3土 2013PCカンファレンス(東京大学) テーマ「つぎの教育イノベーションを問う」
 研究委員会
 4日 2013年度任意団体CIEC定例総会／2013年度一般社団法人CIEC定時社員総会
 2013年度第1回一般社団法人CIEC理事会／第58回会誌編集委員会
 10土 学校の玉手箱(CIEC北海道支部) Vol. 20

2013年9月

- 25水 会誌35号インタビュー（ロゴヴィスタ株式会社代表取締役社長）

2013年10月

- 15火 PCカンファレンス北海道2013実行委員会
 24日 第59回会誌編集委員会

2013年11月

- 3日・4月 PCカンファレンス北海道2013（北海道工業大学）
 「“クラウド”が変える教育の未来 ～新しい可能性～
 スマホ/タブレット/SNS/電子書籍/オンラインストレージ」
 9土・10日 2013九州PCカンファレンス（鹿児島大学）
 「つぶやきからつながりへ」
 24日 2013年度第1回三役会議

2013年12月

- 8日 2013年度第2回一般社団法人CIEC理事会／2014PCカンファレンス第1回実行委員会
 14土 CIEC第99回研究会（東京学芸大学附属高等学校）
 「iBooks Authorで作るインタラクティブなデジタルハンドアウト」